

平成 28 年 3 月一般質問

奈半利町制 100 周年の節目を迎え新たなる奈半利町の展望を伺う。

※一般質問に入る前に、本日は東日本大震災から 5 年目に成ります。改めて哀悼の意を表すると共に被災された皆様の一日も早い復興を祈っております。

質問 1 回目

この平成 28 年 5 月 1 日に、いよいよ奈半利町制 100 周年を迎えます。この 100 年の間には、先人の努力や智恵により様々な困難を乗り越え現在の奈半利町があると言っても過言ではないと考えるところです。

現在、齊藤町長も 4 期目の半ば 14 年目に成ろうとしている。
振り返ってみれば様々な出来事がありました。国の政策により平成の合併を始めとし、三位一体の改革により財政的にも非常に厳しい状況に追い込まれた時期もあり、行政・議会も苦労してきました。
そのようなおりにも、執行部を始め、町民・議会・役場職員が一丸となり歯を食いしばり乗り越えてきた経緯もあります。

行政としては、給与及び職員削減、議会も定数 14 人から 10 人、そして議員歳費の削減にも取り組んでまいりました。

また、他方では、東日本大震災という経験をしたことのないような甚大な災害もあり、当町も防災に関わる対応策を県内でもいち早く打ち出して現在も継続しております。また、ふるさと納税をはじめ、多くの奈半利町独自の事業にも取り組まれ、大きな成果をだしております。

さて、5 月から町制 101 年目がスタート致します。
齊藤町長の 14 年間の検証は基より、総合計画等で方向性は理解しておりますが、町制 100 周年の節目に改めて町長より、将来どの様な町づくりを目指し、ビジョンを考えているのかを伺いたい。

答 弁（町長 齊藤一孝）

寺村議員の、町制 100 周年の節目を迎え、5 月より新たな歴史が刻まれると。未来に向けて奈半利町の展望を伺うという事で、ご答弁を申し上げます。

平成 14 年に町長就任以来、4 期 14 年間、総合計画の理念のもと、全力で町の発展のために各施策に、職員一同取り組んでまいりましたが、振り返ってみますと当時は、今もそうですが、過疎化・少子高齢化が進む中、国の構造改革の影響を受け、地方交付税の削減、行政の広域化や合併問題、基幹産業であります一次産業の不振と、大変厳しい経済、財政状況にございまして、多くの行政課題が山積しておりました。

そうした状況の中、議員の皆様をはじめ、住民の皆様のご努力、議員の皆様との協力によりまして、町道、あるいは生活基盤、農林業等の産業基盤の整備や福祉、教育サービスの向上も一定着実に進み、また特に財政状況も一定改善することが出来ました。

しかしながら、我が国の構造的な課題ではございますが、人口の減少、地域経済の縮小に歯止めがかからず、また東日本大震災発生、以後は多くの財政負担を必要とします、南海トラフ地震対策は重要な課題ともなっております。

そのため一昨年に 4 期目の町政運営にあたっての所信でも申し述べましたが、町の将来に向け、取り組むべき重点施策を産業の振興、東部の交通拠点としての機能確立と情報基盤整備による町の活性化、人に優しい町づくり、若者が定住できる町づくり、安全で安心な町づくりとして、各施策を計画的に取り組んでまいりました。そうした中いち早く取り組んでおりました、ふるさと納税の返礼品として、当町の特産品に全国的に注目が集まり、多くの支援の声やご寄附を頂き、その相乗効果によって地域産業や観光の振興、雇用の創出、子育て支援等、町の活性化施策に取り組む事が出来始めております。

しかし何よりも、小さな町でも工夫や取り組み次第では、やればできるという気分が行政は勿論の事、町全体に一気に広がったことが最大の効果ではないかというふうに感じております。このチャンスを最大限に活かすために国が推し進める地方創生制度により産業の振興は「かせぐ」、東部の交通拠点としての機能確立と情報基盤整備による町の活性化は「にぎわう」、人に優しい町づくり、若者が定住できる町づくりは「かなえる」、安全で安心な町づくりは「支える」という、位置づけた地方版総合戦略を策定し、来年度から指導を始める行政と住民が連携、協働して運営する集落活動センターを中心にまずは「かせぐ」仕

組みづくりをメインとした事業に先行的に取り組み、その後、順次、にぎわう、かなえる、支えるの各施策を総合的に展開していくことにより、人口の減少、地域経済の縮小対策に真正面から取り組み、町の元気と活気を取り戻したいと考えております。

この地に人が住み着き、以来何百年、何千年と私達の祖先が幾多の困難を乗り越えて、守り、繁栄させてきました、ふるさと奈半利町は本年 5 月 1 日に、町制 100 周年の記念となる節目の年を迎えております。

自然豊かな郷土づくりに邁進してこられました先人たちのご努力に感謝をするとともに、この遺産を受け継ぎ、将来を担う子供や若者に希望を与える町づくり、子どもからお年寄りまでが健やかで安心して暮らせる町づくりを目指し、町制 100 周年を迎え記念となる本年が町制発展の飛躍の年となるよう、先頭に立って走り続けたいと思います。

住民や住民グループの皆様、議員の皆様の中には、町づくりに対する手法、取り組み、優先順位、あるいは考え方にはいくらか相違はあるかもしれませんが、目指す方向は同じであります。住民の皆様全員がこの町に生まれ育ち、暮らしたことを誇りに思えるような町づくりに全力を尽くし、誠心誠意努力してまいり所存でございますので、宜しくお願い致します。

質問 2 回目

町民は、景気の低迷から未だに脱出出来ず、非常に苦慮しておられる状況です。議会も執行部同様に奈半利町民が幸福・健康・安全で、日々暮らせるのが目的である事は同じだと確信するところです。

今後、何年経っても、町民の誰もが、奈半利町民である事を誇りに思えるように、あらゆる面で安心・安全な町づくりにより一層取り組んで頂ける事を期待して質問を終わります。